

村山槐多の文章「坑内が一等面白った」、挿絵四点、関連写真一枚 註

〔註〕

一、「！」は、原文では同じ記号が横に二つ並んでいるが、再現できなかったので一つだけにした。

二、原文では、署名の上に「田端一五五」と書かれている。村山槐多「坑内が一等面白った」(『ママ 武俠世界』第三卷第一〇号、一九一四年九月一日、三六頁) 参照。これは小杉未醒が邸内に建てた借家の住所であり、正確には「東京府北豊島郡滝野川村田端一五五番地」である。槐多は一九一四(大正三)年七月五日からこの借家で同じく画学生であった水木伸一と共同生活をしていた。『没後90年 村山槐多 ガランスの悦楽』展図録(渋谷区立松濤美術館編集・発行、発行年月日無表記)「著作権表記は二〇〇九年」 所載の瀬尾典昭編「村山槐多年譜」(二六一頁) 参照。なお、図録の表題の「90」は、原文では横並びになっているが、再現できなかったなので縦並びにした。

三、「村山槐多の関連写真二枚(「本社主催壮快旅行」)(植田智晴執筆・発行、二〇一三年二月二〇日初稿発行、二〇一三年六月二二日第二稿発行、二〇一一頁、左記のハイパーリンク参照)。

<http://www.sekineshoji.net/shryo/meika/sakka/kaita/b3-10kuchie/b3-10kuchie.htm#kaisetsu>

- 四、「村山槐多の挿絵六點、関連写真一枚（「テング非天狗壮快旅行記」）（植田智晴執筆・発行、二〇一三年二月二〇日初稿発行、二〇一三年六月二二日第二稿発行、三頁、左記のハイパーリンク参照）。

<http://www.sekineshoji.net/shryo/meika/sakka/kaita/tengu/tengu.htm#kaisetsu>

- 五、手書きの文章なのでルビも原文の通りに再現した。「ッ」は促音を意味する小さい「ッ」だと判断したが、微妙なところもある。

- 六、「村山槐多の関連写真二枚（「本社主催壮快旅行」）（註三の文献、註五二「二四五頁」、左記のハイパーリンク参照）。

<http://www.sekineshoji.net/shryo/meika/sakka/kaita/b3-10kuchie/b3-10kuchie.htm#kaisetsu>

- 七、「華」は、原文では「華」及びその異体字である「華」とは異なる槐多独特の字になっているように見えるが、「華」のことだろうと解釈した。

- 八、「華」については註七を参照されたい。「壺」は、原文では「壺」とは異なる槐多独特の字になっているように見えるが、「壺」のことだろうと解釈した。

九、「村山槐多の関連写真二枚（「本社主催壮快旅行」）（註三の文献、註五一「二四頁」、左記のハイパーリンク参照）。

<http://www.sekineshoji.net/shiryomeika/sakka/kaita/b3-10kuchie/b3-10kuchie.htm#kaisetsu>

一〇、無署名「本社主催壮快旅行」『武侠世界』第三卷第一〇号「註二の文献」、口絵「頁数無表記」、表題は目次では「本社主催夏期（夏）壮快旅行」になっている）所載の「華厳の瀑と押川主筆」（撮影者不明、左記のハイパーリンク参照）。

<http://www.sekineshoji.net/shiryomeika/sakka/kaita/b3-10kuchie/b3-10kuchie.htm#kuchie>

一一、鶴岡生「愉快に且つ有益に」『武侠世界』第三卷第一〇号「註二の文献」、三六頁）。なお、引用文中の「にほひ」は、原文では傍点が付されているが、再現できなかつた。

一二、「村山槐多の関連写真二枚（「本社主催壮快旅行」）（註三の文献、一一頁、左記のハイパーリンク参照）。

<http://www.sekineshoji.net/shiryomeika/sakka/kaita/b3-10kuchie/b3-10kuchie.htm#kaisetsu>

執筆者・発行者 植田智晴

二〇一三年二月二〇日 初稿発行

二〇一三年六月二二日 第二稿発行

二〇一三年十二月一七日 第三稿発行

© UEDA Tomoharu 2013-2023

この PDF の無断での転載、複製などは禁止とさせていただきます。